

1140 | 絵画V

2単位（通信授業1単位、面接授業1単位）

三浦明範教授、長沢秀之教授、赤塚祐二教授、遠藤彰子教授、袴田京太郎教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、金子善明講師、佐々木敏講師、清水健太郎講師、瀬島匠講師、松村繁講師、山本明比古講師、吉川民仁講師

授業の概要と目標

A系、B系選択。

「素材と表現」をテーマに制作する。絵画において材料は、技法とともに、表現の成り立ち及びその空間構造とも密接に関連するものである。ここでは絵画は心や精神だけでなく、素材が重要な役割を持つことを知って欲しい。支持体や絵具、その他の素材の物質としての面白さを感じ、それらを積極的に取り扱うことによって、思いがけない効果が生まれ、表現の豊かさにつながる。

通信授業、面接授業を通して、素材と表現の在り方を制作することにより学ぶ。

課題の概要

○通信授業課題

〈A系〉「素材と表現」

1-1 質感の異なるモチーフを選び、それらを組み立てた静物を描く。ここでは絵具自体が物性を持つものとして捉え、その物質感（マチエール）を意識した表現を考えて制作する。また、普段使い慣れた油絵具とキャンバスに限らず、支持体や描画材などを工夫しても良い。

〈B系〉「素材と表現」

1-1 様々な素材（木材、布、合成樹脂、金属など）を貼り込んで構成した作品（実材構成作品）を制作し、更にこの作品をもとにした平面作品を制作する。

○面接授業課題

〈A系〉「素材と表現」

1-1 静物の組み合わせを配置した対象を、支持体や描画材などの素材を活かす工夫をして構成した平面作品を制作する。支持体は自由で30～40号程度、描画材は自由（油彩、アクリル絵具、水彩絵具他）。

〈B系〉「素材と表現」

1-1 材質感の違う様々な布類を中心に、他の素材を組み合わせで構成し、普段意識されなかった感覚を呼び起こすような平面作品を制作する。支持体は木製パネルで30～40号程度、描画材は不使用。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『絵画Ⅲ～Ⅴ 平成29年度』の「絵画Ⅴ」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第1章「デッサン・油彩」、第2章「油彩画の素材・技法と表現」、第3章「水性絵具」等を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第1章「美術の成り立ち」等を参照。

[面接授業]

第1日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（平面作品）
第2日	午前：制作	午後：制作
第3日	午前：制作	午後：採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3年次

[履修条件] 「絵画Ⅳ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備考] 油絵学科絵画コース3年次必修科目。

「絵画Ⅲ」、「絵画Ⅳ」、「絵画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

学習指導書：『絵画Ⅲ～Ⅴ 平成29年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年）